

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03602

研究課題名（和文）グローバル化時代の記憶と政治：ラテンアメリカの移行期正義・人権・平和

研究課題名（英文）Memory and Politics in the Era of Globalization: Transitional Justice, Human Rights, and Peace in Latin America

研究代表者

杉山 知子 (Sugiyama, Tomoko)

愛知学院大学・総合政策学部・教授

研究者番号：90349324

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：アルゼンチンやチリ、中米諸国をはじめとするラテンアメリカ諸国では、過去の軍政や内戦時の人権侵害に対し、真実や正義を求め、記憶する取り組みを行っており、時間の経過や民主主義の定着・政治状況の変化とともに、過去の人権侵害の状況が可視化されてきた。さらに、グローバルな趨勢として、戦争や内戦、権威主義体制下での人権侵害を経験した国家・社会は、負の歴史に向き合い、記憶を伝承することが重要であるとの規範も形成されてきた。ラテンアメリカの事例から、移行期正義の類型や取り組みは多様であり、国連、米州機構や国際NGOと現場人権NGOとの連携は、移行期正義の諸政策を促進・実施するうえで効果的であると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ラテンアメリカ諸国における移行期正義は、民主化移行期・民主主義定着期における事例、内戦・紛争後の平和構築の事例、国内武力紛争後の事例に分類することができる。その取り組みは、恩赦法により正義が追及されない事例がある一方で、真実と正義の追及をし続け、記憶する事業、地域のエンパワメントを含めた統合型補償事業など様々である。今日、グローバルな規模で、移行期正義は、法の支配、平和構築、開発、先住民族や女性といった社会の少数派のエンパワメントと連携した取り組みが見られており、移行期正義の先行的な取り組みとしてのラテンアメリカ諸国に焦点を当てた研究は、学術的にも社会的にも意義あるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：Latin American countries such as Argentina, Chile, and Guatemala have made efforts to seek truth and justice, and remember the past human rights violations under the military government/civil wars. These countries have engaged in policies and projects on transitional justice. In the 21st century, so called transitional justice norm has been formed at the global scale. The types of transitional justice, and its policies and initiatives are diverse. Through Latin American experiences, collaboration between local NGOs and international organizations such as UN and OAS, and international NGOs would be effective in promoting and implementing transitional justice in societies.

研究分野：国際関係論

キーワード：移行期正義 記憶 ラテンアメリカ 人権 冷戦期 アメリカ 米州機構 国際人権規範

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

ラテンアメリカ諸国において、過去の軍政や内戦下の人権侵害に対し、民主化移行期・紛争後の社会がどのように向き合うのかは重要な政治課題である。どのような取り組みが行われたのか、過去をどのように記憶してきたのか、ラテンアメリカを超えたグローバル規模で同様の動きがみられるのかといった問題意識が本研究当初の背景にある。

#### 2. 研究の目的

本研究は、ラテンアメリカ諸国において移行期正義の取り組みがどのように進められてきたのか、真実委員会報告書、裁判、象徴的な慰霊碑建立、記憶・人権ミュージアムの開設、公共の記憶空間の創設等を通し、過去の人権侵害の記憶がどのように形成されていったのか、ラテンアメリカ諸国の記憶形成とグローバルな趨勢とはどのように関係しているのか、国際関係論分野における移行期正義研究がどのように発展してきたのか等について考察することを目的とする。

#### 3. 研究の方法

本研究は、ラテンアメリカ諸国(アルゼンチン、チリ、グアテマラ、エルサルバドル、パナマ)及びドイツ等他の地域における過去の戦争・人権侵害・ホロコーストを記憶する慰霊碑・関連施設の視察及び関連資料収集・資料、ラテンアメリカを事例とする先行研究及び国際関係論分野における移行期正義研究を整理・検討し考察を進めるとともに、米州機構の米州人権委員会及び米州人権裁判所の公式サイトより、アルゼンチンやチリにおける人権侵害関連についての活動記録、年報告書、国別訪問報告書、米州人権裁判所裁判記録を参照した。記憶をめぐるグローバルな趨勢については、米州人権委員会及びアルゼンチンの司法人権省と UNESCO との人権擁護啓発関連事業のサイトから活動記録を考察した。

#### 4. 研究成果

過去の人権侵害についての記憶に関する関連施設訪問及び関連資料の収集、一次資料、先行研究を含む二次資料をもとに考察を進めた本研究の成果及び知見は以下のようにまとめられる。

(1)アルゼンチンでは、真実委員会による報告書、人権侵害に対する裁判により真実と正義が追及されたものの、軍部に配慮した終結法、服従法の制定や恩赦により政治的妥協が見られた。その後、21世紀にはいると、これらの法律や恩赦に対し違憲判決が下り、正義の追及が可能となった。過去の秘密収容所は記憶・人権博物館として負の歴史を後世に伝える使命を担っている。チリでは、民主化移行期には、真実和解委員会による強制失踪者調査報告書が発行されたものの、裁判は実施されなかった。1998年のロンドンでのピノチエト逮捕後、国内でも正義の追及が進められた。広範囲にわたる人権侵害調査報告及び被害者の認定と補償も進められた。人権侵害を記憶する博物館や慰霊碑も全国各地に建立されている。

ブラジルやウルグアイでは、恩赦法や失効法の制定により正義を求める動きは限定的であったが、ブラジルでは、1995年に強制失踪者法制定と遺族への補償、2007年には人権侵害の公的記録に関する公刊、その後、真実委員会の設置と報告書が公刊された。ウルグアイでは、2000年に強制失踪者再調査が実施され、強制失踪者の認定及び国家機関の関与も明らかとなった。2005年に発足した左派政権下では、人権侵害関連犯罪の裁判が実施され、大統領経験者に対し有罪判決が下った。エルサルバドルやグアテマラでは、国連が関与し平和構築の一環として真実委員会を設置され、人権侵害の記録やその歴史的背景が公的に記録された。しかし、エルサルバドル、グアテマラでは、裁判による正義の追及については、あまり進展が見られてない。ラテンアメリカ諸国では、その国独自の政治的・社会的状況が移行期正義の追及・取り組みに影響してきた。とは言え、人権 NGO が連携し合い過去の人権侵害について真実と正義を問い続け、人権侵害の状況を記憶し後世に伝えていくという姿勢が見られている。

(2) 米州機構の米州人権委員会は、軍政下のチリやアルゼンチンでの人権侵害について予備調査や訪問調査を実施し、その結果を報告書で公表した。聞き取り証言や施設訪問の記録を含む調査報告書には、当時の人権侵害の詳細が記されている。これらの国々は、民政移管後速やかに真実委員会を設置し強制失踪者の調査を実施し、その結果を公表した。これらの国々では軍政期において人権 NGO と連携し被害者遺族が記録を残すことを重視していた。同時に、長期的には軍政下の米種人権委員会活動も真実を求める動きを支援する結果となったと思われる。

(3) 過去に深刻な人権侵害を経験したアルゼンチンは、移行期正義や人権擁護の分野で活躍する人材を輩出し、グローバル規模での真実・正義を求める動きや過去の人権侵害を記憶する活動に貢献している。人材面では、アルゼンチンの人権裁判において捜査担当をした検事は後に国際刑事裁判所の主任検察官を務め、法の支配と移行期正義の追及に貢献している。人権擁護啓発に従事する者の中には、エルサルバドルや南アフリカの真実委員会活動の支援をする者、国際移行期正義センターの運営に携わり、国連人権委員会の拷問特別報告者を歴任する者もいた。今日、アルゼンチン政府は UNESCO と連携し、グローバルな規模で展開されている人権擁護や過去の人権侵害について記憶をする諸活動を支援する政策をとっている。アルゼンチン司法人権省と UNESCO によって進められている事業としては、人権教育の充実を目指す教育関係者に向けたトレーニング、人権国際講座の開講、世界各地の人権侵害の記憶の場所や関連施設のマッピングなどがある。

(4) 移行期正義研究は、軍事政権から民政移管した民主化移行期に過去の人権侵害の真実と正義をどのように追及するのかという政治的課題や取り組みといった視点から研究がすすめられた。その後、内戦や紛争後社会の平和構築という観点から移行期正義研究がすすめられ、国連事務局長の報告書やガイダンスにおいても移行期正義が記されるようになった。さらに、移行期正義の概念は、歴史上の不正義をただすという観点から、戦時下の性暴力に対する責任追及、歴史

認識問題、植民地支配の責任論などにも適用されるようになっている。移行期正義研究の幅は、今後一層広がるものと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 杉山知子
2. 発表標題 冷戦期の米州機構・人権・平和：国際関係論の視点からの考察
3. 学会等名 同志社大学ラテンアメリカ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山知子
2. 発表標題 冷戦期のチリにおけるクーデタの背景：Tanya Harmer著書Beatriz Allendeからの考察
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会中部日本研究部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山知子
2. 発表標題 「移行期正義をめぐる研究の変遷と平和研究の観点からみる研究課題」
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山知子
2. 発表標題 アメリカのヘゲモニー？：冷戦期アメリカのアカデミズムとチリ
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会中部日本研究部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Sugiyama
2. 発表標題 US-Latin American Relations, the Paradox of American Hegemony and Domestic Politics: Lessons from US-Chilean Relations in the Cold War Period and After
3. 学会等名 FLASCO-ISA Joint Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉山知子
2. 発表標題 1970年代及び1980年代のアルゼンチン社会と政治的暴力の記憶：アルゼンチン映画からの考察
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会中部日本研究部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉山知子
2. 発表標題 震災をめぐる日本とチリとの国際協力 モアイプロジェクトを中心的事例として
3. 学会等名 チリ-日本修好120周年記念シンポジウム 南山大学ラテンアメリカ研究センター / 在日チリ大使館 / 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会 (CANELA)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 宇佐見耕一他編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 416 (109 - 121頁担当)
3. 書名 世界の社会福祉年鑑：国際人権レジームと社会福祉 (「米州人権レジームの形成と変遷」章担当、109 - 122頁)	

1. 著者名 畑恵子・浦部浩之編 杉山知子 第9章担当	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 324
3. 書名 ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』(「移行期正義の取り組みとグローバルな課題 過去とどう向き合い、将来を構築していくのか」217 - 240頁)	

1. 著者名 ラテンアメリカ文化事典編集委員会(「人権侵害と真相究明」執筆担当)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 780 (568 - 569頁担当)
3. 書名 ラテンアメリカ文化事典	

1. 著者名 細谷広美・佐藤義明編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 368 (69-89)
3. 書名 『グローバル化する 正義 の人類学：国際社会における法形成とローカリティ』(杉山知子「真実と正義を求めるグローバルな動き アルゼンチンの経験と国際社会の変化」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------